

学習指導の改善と改革 PDCAモデルと渦巻成長モデル

西之園 晴夫† 望月紫帆† 東郷多津†† 高橋朋子†††
†(特非)学習開発研究所 ††京都ノートルダム女子大学 †††佛教大学非常勤講師

はじめに

わが国では大学型高等教育での公式学習の改善が進められているが、非大学型高等教育での公式教育外学習サービスは、労働移動性ならびに雇用可能性を確保するために重要である。いずれにおいても学習指導(teaching/learning)の改善ならびに改革に適用できる方法論を開発する必要があるが、教師主導の講義から学習者主体の授業への転換は連続的ではない。

概要 授業改善ではPDCAモデルが有効に機能するが、授業改革には不十分である。渦巻成長モデルを開発し、教育方法学の授業、中学校初任者研修、学習意欲の低い英語の授業開発で実施し有効に機能することを実証した。



実践的研究から渦巻成長モデルを開発してきた経緯を報告し、その研究方法を検討

事例1

1 多人数の中学校初任者研修

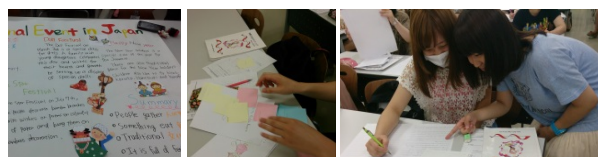
- ・新採用者の悉皆研修で最多101名の受講者
- ・チームでの参加型学習を開発
- ・初年度のメタファは注文服の仕立て
- ・2013年度のメタファはハチドリとオオワシ
- ・経験のない研修開発にメタファ、イメージが効果的



事例2

2 多人数授業でのチーム学習

- ・教職必修科目の教育方法学で、2000年度から開始
- ・講義形式からグループ学習に転換
- ・メタファ、イメージ、モデルを用いた開発方法を提案
- ・メタファはパラシュート→パラパント→パラグライダー
- ・前年度の授業形態を継承しながら改善する段階と、前年度と全く異なる授業形態によって改革するブレックスルーする年度とを交互に経験

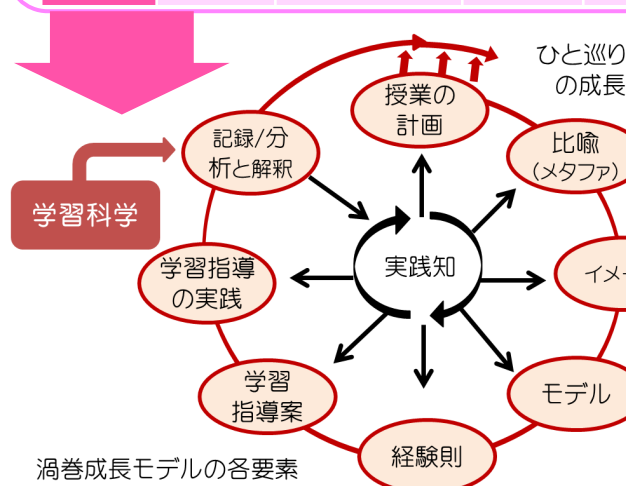


事例3

3 学習困難学生の学習意欲回復

- ・大学における英語の必修科目ライティング
- ・受講者は学習意欲がきわめて乏しく基礎学力も不十分
- ・メタファを用いて教材開発。初年度のメタファは「回転寿司」、2011年は「指揮者のいないオーケストラ」に変化

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2010/2011	2011/2012	2013
メタファ	回転寿司	バランスのとれた食事	朝のお支度	快適な住環境	巣立ち	駅伝	指揮者のいないオーケストラ	
目的	自学用教材の準備	自律学習のためのフレーム作り	一般クラスへの適応	教科内容の強化	教師主導から自律的学習への移行	協調学習を取り入れた学習設計	協調学習を取り入れた学習者が楽しみながら活動できる設計	
	試行	改革	改善	改善	改革	改革	改革	改善



以上の実践的研究から渦巻成長モデルを開発

教育分野で広く採用されているPDCA
・安定したシステムを改善する方法としては有効に機能
・抜本的な変革に至らないことが多い

改革は全く新しい授業を開発するので、不確定要素が多い。さらに、途中で根本的に変更しなければならないことがある。

渦巻成長モデルでは、開発授業の分析結果から全く新しい形態に変更するためにメタファと図式イメージを採用することで柔軟に対応できることが確かめられた。